

学校経営推進費 評価報告書（最終）

1. 事業計画の概要

学校名	大阪府教育センター附属高等学校
取り組む課題	授業改善への支援（生徒の学力の充実）
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外部機関の客観的学力診断テストにおける学力の向上 ・ 授業アンケートと学校教育自己診断における生徒の授業満足度の向上 ・ 大学教員や図書館司書などからのコンサルテーションの成果
計画名	<p>「探究図書館を創ろう！！」</p> <p>～生徒がカリキュラムのオーナーとなり、 学びをデザインすることを支える学校図書をめざして～</p>

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<p>（３）あくなき探究心の育成</p> <p>ア 教科横断型である探究ナビを本校教育活動の軸と位置付け、活用型の授業に取り組む。そして、探究ナビ発表大会を実施し、探究活動の充実とその成果を発信する。</p> <p>（中略）</p> <p>※令和４年度、「探究図書館を創ろう」が学校経営推進費支援校に決定。評価指標として、図書館の来館者数を 1000 人以上（R3：305 人、R4：355 人、R5：1079 人）とし、利用書籍の統計変化を探るとともに、学校教育自己診断（生徒 12）で、「講義室、実習教室、探究図書館等、HR 教室以外で探究的な教育活動が行われている」の肯定回答率（R5：80.2%）を令和８年度まで 80%以上を維持する。また、大阪府教育センターフォーラム等での成果発表を行う。</p>
事業目標	<p>本校が創立以来先進的に取り組んで来た探究活動をさらに発展させ、生徒自らが個別最適な学びや協働的な学びをデザインする学習活動を展開する。主体的な探究活動を支援するような文献や論文に溢れ、また共創的な学習活動を展開できるディベートルームがあり、各授業での活用が可能な知識創造の場となる学校図書を作ることで、生徒の学びを深め、主体的に学びに向かっていると自己を肯定できる生徒の割合を増加させる。</p>
整備した 設備・物品	<p>ワークテーブル 12 台（いちょう型）、移動式チェア 12 台、移動式ホワイトボード 1 台、ベンチ付扇形書架 2 台、扇形書架 4 台、直線書架 1 台、ソファ 3 個、カーペット 18 m²（紺）、カーペット 35 m²（緑）、書籍 411 冊</p>
取組みの 主担・実施者	<p>総務企画部・探究科教員（探究主担 3 名＋担任 18 名＋学年主任 3 名＋大阪府教育センター指導主事）・授業研究委員会</p>
本年度の 取組内容	<p>本年度もブックコートフィルムを購入し、新しい書籍を多数配置した。また、書籍の分類においても、探究学習が加速するよう、「探究ナビ」の授業を中心に、その時の課題探究の題材にコミットするように工夫をするなど、書籍への物理的アクセスが容易になるように努めた。探究図書館の利用を促進する取り組みとして、第 1 学年の「探究ナビⅠ」において、文献検索の方法や、参考・引用の方法などを体験的に学ぶ探究図書館ツアーを実施した。このことにより、様々な探究学習において自らエビデンスレベルを確認しながら課題探究に臨む姿勢の素地を構築することができた。</p>
成果の検証方法	<p>図書館の来館者数を 600 人以上（R3 305 人、R4 355 人）</p>

と評価指標	利用書籍の統計変化を探るとともに、学校教育自己診断（生徒）で、「図書館を利用して探究活動を進めることができた」肯定率 80%以上。
自己評価	<p>・利用者数の増加……………【◎】 昨年度の来館者数は1504人と探究図書館開設前の来館者数の3倍程度となった。今年度の来館者数はさらにその2倍以上の3144人となり、探究学習が加速する環境づくりに加え、人のつながりが生まれる場づくりができた。</p> <p>・文献貸し出し数……………【○】 貸し出し数は、昨年度・今年度ともに1050冊となっており、開設前の貸し出し数の3倍程度となった。一見すると貸し出し数は来館者数に比例していないが、休憩時間や授業中に、文献を手に取り探究学習に活用している生徒の数は非常に多く、開設前には見られなかったものである。</p> <p>・学校教育自己診断……………【◎】 講義室、実習教室、探究図書館等、HR教室以外で探究的な教育活動が行われている。 （肯定率 R6：80.9%） 図書館を利用して本を読んだり、友だちと話をしたりすること（探究活動を含む）ができた。 （肯定率 R6：63.0%） どちらの項目も昨年度より少しポイントを伸ばすことができた。特に探究的な教育活動が行われていることへの肯定率が8割を超えているのは、探究図書館を軸にした探究学習の展開の成果と言える。</p>
事業のまとめ	<p>来館者数および貸し出し数が予想よりもはるかに増加したことは大きな成果であった。また、貸し出しには至らずとも、授業中（探究中）にわからないことが出た際に文献を参照しに来る生徒が非常に増加した。探究学習中に生徒から図書館の利用をしたい旨の声が多くあがるようになり、今では探究図書館の利用が当たり前になっている。そのような学校文化・文化資本を形成できたことこそが最も大きな成果であったと考える。</p> <p>今後は探究図書館において、授業の枠組みを超えた探究が生まれるような支援を行いたい。具体的には、教員と協働の課題探究を展開したり、パネル発表会を企画するなど、知的交流が可能なかつてのサロンのような探究図書館のあり方を継続して研究していきたい。</p>

3. 事業費報告

今年度事業費総額	20,548	円
----------	--------	---

積算内訳

* 決算科目（節）を明示し、節毎に積算内訳を記載すること。

	科目（節）	番号	内訳	単価	数量	金額
積算内訳	3 消耗需用費	1	ブックコートフィルム21cm×50m	¥5,379	2	¥10,758
		2	ブックコートフィルム19cm×50m	¥4,895	2	¥9,790
		3				
					小計	20548
					合計	¥20,548